

## まえがき

「自分はどんな教師になりたいのか？」

教師を目指した頃、あるいは教師になったばかりの頃はそれぞれ夢や理想を抱いていたことだと思います。

しかし、とにかく日々の業務が忙しかったり、生徒との関係の理想と現実のギャップに苦しんだりする中で、「目の前の問題に向き合うことで精一杯」になってしまったりするものです。

また、なんとなく現場に存在する「暗黙の了解」のようなものがしみついてしまい、ともすれば「とにかく教師の指示に従う生徒」をつくる方向に向かってしまうこともあるかもしれません。

当初の自分の夢や理想と、いまの自分の教育活動のズレは、もしかすると日常の中であまりにも「あたり前」になっていて、普段の生活の中で自然には気付きにくいものになっているかもしれません。

なんだかうまくいかないな、ちょっと混乱しているかも。そんなふうに感じたときに、うまく整理できる方法があります。

A3の紙1枚に、自分のやっている仕事や実践をふせんを使って書き出してみる、という方法です。

やってみると、すっきりと自分の考えが整理され、本当にやるべきことがはっきりして、余計なことをしなくて済むようになります。

まわりのたくさんのアドバイスに振り回されるということなくなります。

本書は、その方法をまとめた本です。

A3の紙1枚にまとめていく、と書きましたが、使うのはTPチャート

(ティーチング・ポートフォリオ・チャート) というワークシートです(本書6頁と131頁にそのシートが提示されています)。

このTPチャートは、教師が自分の行っている教育実践を振り返り、自分の教育理念を明確化できるツールです。

TPチャートは作成はとても簡単なのに、自分の思考がスッキリと整理され、授業改善やクラス運営の改善を大きく進めることができる画期的なツールです。そのため、全国の学校、自治体で使われ始めています。

TPチャート作成の過程では、自分の行っている教育実践について、なぜその方法を選んでいるかという「理由」を自分自身に問うことになります。それは、これまでの自分の教育活動を原点に戻って再考することにつながります。

「自分はどんな教師になりたいのか？」

「その教師にどうすればなれるのか？」

TPチャートを活用すると、多くの場合、これらの問い合わせに対する答えがはっきりと見つかります。

TPチャートを作ることで、自分の目指している教育や、やるべき実践が明確になり、自分の教育活動に誇りを持てます。本書はそのことを目指して、作られたものです。

読んでくださった方の気持ちが前向きになり、「なりたい教師」になれることを願っています。

2018年1月

編著者一同

# Contents



まえがき	2
TPチャートってどんなもの？	6
本書の使い方	14

## 第1章

### 1枚のシートによる振り返りで 授業がクラスがこんなに変わる！

TPチャートはすごい！	16
「自分らしい」授業ができるようになった！	18
「生徒が学びの主人公」の授業が見えてきた！	20
TPチャートで「矛盾」を可視化し授業改善できた！	22
「このチャート1枚で5年はがんばれる！」と実感！	24
TPチャート作成ワークショップに参加した 先生たちの感想	26

## 第2章

### 自分のTPチャートを 作ってみよう！

TPチャートを知ろう！	30
TPチャートを作る準備をしよう！	32

完成したTPチャートはこんな感じです！	34
TPチャートを作る流れを知ろう！	36
基本情報、作成の目的、教育の活動を書き出してみよう！	38
改善・努力を書き出してみよう！	40
成果・評価を書き出してみよう！	42
方法を書き出してみよう！	44
方針を書き出してみよう！	46
理念を書き出してみよう！	48
理念・方針・方法が対応づいているか確認しよう！	50
エビデンス（根拠）を書き出してみよう！	54
目標を書き出してみよう！	56
TPチャート作成の感想を書き出してみよう！	58
TPチャートの誕生の背景	60

## 第3章

### 作ったTPチャートを 見直してみよう！

作ったTPチャートを見直す	62
理念のチェック①	
その理念は本当に理念ですか？	64



理念のチェック② その理念は方針に対応づけられますか？	66
理念のチェック③ 理念同士の関係を説明できますか？	68
理念と方針のチェック① その方針で理念を実現できますか？	70
理念と方針のチェック② その方針は理念とどう関係していますか？	72
●●● 理念と方針の見直しのポイント	74

#### 第4章

### TPチャートで授業が 生徒がこんなに変わった！

TPチャート作成で「なりたい自分」が見えてきた！	76
TPチャート作成で授業設計が変わった！	84
TPチャート作成によって、自分の目指していることが はっきりした！	92
●●● ティーチング・ポートフォリオとは？	101

#### 第5章

### TPチャートを使うと研修・勉強会 もこんなに変わる！

研修・勉強会にTPチャートを活用する	104
研修・勉強会の構成	106
第1部 TPチャートを作成する	108
第2部 TPチャートを見直す	112
第3部 TPチャートを授業改善につなげる	116
●●● 学習指導要領とTPチャート	120

#### 第6章

### こんなことに困ったら？ TPチャートQ&A

TPチャートについて	124
TPチャートの作り方について	127
ワークショップの実施・運営について	129
TPチャート	131
参考情報	132
あとがきにかえて～TPチャートがこれからの教育を変える～	134

## 本書の使い方

本書を手にとっていただきありがとうございます。本書は教育に日々向き合う小学校・中学校・高等学校の先生や、これから教師になろうとする学生の方々に向けて執筆しました。日々の教育実践において感じる悩みや課題がご自身の振り返りを通じて整理・解決に向かったり、自分らしい教師としてのあり方をご自身で見出すために、TPチャートが役立つことを知っていただければと思っています。

本書は全6章で構成されています。まず、本の冒頭では、TPチャートの概要や作成された方々の短いコメントなどをまじえ、TPチャートがどういったものかについて簡単に紹介します。第1章では、実際にTPチャートを作成した4名の先生方の作成前の問題意識、作成時の感想などをダイジェストとして紹介します。第2章では、TPチャートを作成するための方法を段階的に解説しています。第3章では、できあがったTPチャートを改善し、活動についての振り返りをより深めるための5つのポイントを示しています。第4章では、第1章で紹介された先生方のTPチャート作成前後の意識や取組みの変化を詳しく紹介します。第5章では、TPチャート作成の研修について説明しています。最後の第6章は、TPチャートに関するQ&Aです。

本書はどこからでも読み始められますが、目的に応じて次のような読み方をおすすめします。「TPチャートについてまず知りたい」という方は本の冒頭や第1章から読まれるとよいでしょう。作成の効果の具体例をより詳しく知りたい方は、第4章をご覧ください。「TPチャートを作成してみたい!」という方は、第2章から読んでTPチャートを作成し、続けて第3章に進みTPチャートの改善をしましょう。「校内でTPチャートの作成研修を企画したい」という方は第5章をご覧ください。具体的に研修の方法について説明しています。本書は、研修のテキストとしても用いることができます。

# 第1章

## 1枚のシートによる 振り返りで 授業がクラスが こんなに変わる！

TPチャートで具体的にどのように授業が変わっていくのでしょうか。

ここでは、まずTPチャートの価値について説明します。続けて、4人の教師がTPチャートによってどのように変わっていたのかをダイジェストで紹介していきます。4人の教師は、TPチャートを作成することでどんな気付きを得て、それをどのように授業改善などにつなげていったのか、それぞれの物語を見ていきましょう。

\*それぞれの事例の詳細を知りたい方は、続けて第4章をお読みください。

# TPチャートはすごい！

大野 智久(公立高校教諭・理科)



## TPチャートとの出会い

小学校、中学校の新学習指導要領が2017年3月に告示され、「主体的・対話的で深い学び」を目指すことが示されました。「教師が教える」という教師中心の授業から「生徒が学ぶ」という学習者中心の授業へと、大きく、質的な転換が求められることになったのです。

このような授業を実現するために、2012年8月の中央教育審議会答申では「学び続ける教員像」の重要性が指摘されています。それを具現化しようと、2017年4月に本書の編者である栗田先生、吉田先生にアドバイザーをお願いし、授業改善の自主勉強会を立ち上げました。

ところが、実際に授業実践を話し合ってみると、「なぜその方法を行っているのか」という自分の目的の曖昧さに気付く人や、自分が大切にしていると思っていた教育理念が揺らいでしまう人が続出し、個別の授業改善になかなかつながらない状態になってしまいました。

すると、栗田先生、吉田先生から「TPチャートを作りませんか」と提案をいただきました。そして2017年5月1日、東京大学でTPチャートの作成会を開催することになったのです。

TPチャートは、自分が普段行っている「方法」をもとに、なぜその方法を用いているのかという「方針」を考え、なぜその「方針」を大切にしているのかという「理念」を考えていきます。

私自身もTPチャートを作成し、その一連の流れの中で、自分が行っ

てきた教育活動が整理されていく感覚がありました。それは、誰かから押し付けられたものではなく、自分の中からわき出してきたものから自分で気付きを得ていくという、それまでの研修会では感じたことのない感覚でした。「これはすごい！」と衝撃を受けました。

## 理念の整理と共有が建設的な対話を生む

教員の研修会は、ときに「押し付け」に感じる場合もありますが、TPチャートの作成は、自らの中にあるものを整理し、自分で気付きを得ていくものなので、「押し付けられた」と感じませんでした。教員研修を根本から変えていくツールになると思いました。

また、TPチャートによって「方法」と「理念」をつなげることができると、授業改善のための対話の質がグッと高まることに気付きました。たとえば、研究協議会のような対話を通じて授業改善を図るような会合でも、さまざま意見をいただいても「言っていることはわかるけれど……」とモヤモヤしてしまい、結局問題解決に向かえないことがあります。その大きな理由の一つに、「理念」の確認をしないままに「方法」の話をしているということが挙げられます。

教育実践に関して対話をする際には、お互いが「大切にしているもの=理念」が何かを知ることが大切です。TPチャートを作成することで、まずは自分自身が「方法」「方針」「理念」を整理することができますし、それを他者と共有し、その上で授業改善のために建設的な対話をすることができるようになります。実際に、最初に紹介した勉強会での対話もより充実したものになってきました。

今後、チームで授業改善をする機会は、今まで以上に増えることが予想されます。そのとき、互いの「理念」を大事にして話し合えることが必要です。TPチャートはそのため非常に有効なツールです。自分の「理念」が明確になると、授業が大きく変わります。本章では、実際に取り組んだ先生方の体験談や感想をご紹介しましょう。

# 「自分らしい」授業ができるようになった！

井上 太智(公立中学教諭・理科)



## 転勤を機に悩み TP チャートで「自分の軸」を発見！

昨年、新しい中学に赴任してから生徒とうまくいかなくなり、授業実践も、生徒との関わり方も、働き方も、全てに悩む状態に陥っていました。TP チャートと出会ったのは異動後 1 年ほど経ったときでした。

TP チャート作成の過程で、自分のやっている「方法」から「方針」や「理念」を整理していくと、理念とひも付いていない実践がたくさんあったことに気が付きました。

これらをさらに整理していく中で、自分が本当に大事にしているものがはっきりしてきました。それは、「学ぶ楽しさ」です。

学ぶことが楽しかったら、子どもたちはそのあともずっと学び続けてくれる。そして、そういう子どもたちが社会をつくっていけるようになることが、自分の目指したいことなのだと腑に落ちました。

そして、自分の理念がはっきりしてくると、「あんなふうになりたい」という他者への憧れではなく、「自分らしい教師」を目指したいと思うようになりました。

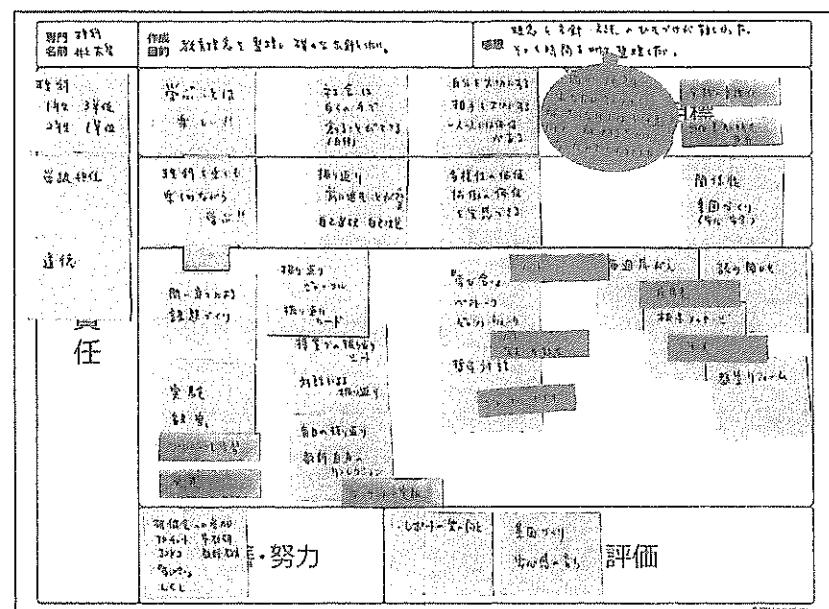
転勤したときのことを思い返すと、うまくいかないことに悩み、自分らしさを見失っていたように思います。いまは、自分の理念を生徒に自分の言葉で話せるようになり、自分らしさを大切にできるようになりました。

いま授業はめちゃくちゃいい感じになっています。授業は子どもと一緒に遊んでいる感覚でできています。子どもたちの変化を感じます。

こういう課題もできるかな、どうかな、と生徒に相談して、試しながら、もうちょっといけるかなと生徒に任せる部分を広げていって、自分も生徒もお互いに自分らしくやれるようになってきました。

TP チャートは、ぼくにとって、自分らしさを見つけ直していくための一つの大きなツールになったと思います。

## 実際に作成した TP チャート



# 「生徒が学びの主人公」の授業が見えてきた！

沖 奈保子(公立高校教諭・国語)



## 生徒自身のニーズをもとに授業を設計するように！

教師になって10年経った頃から、「生徒が学びの主人公」となる授業を実践するようになりました。数年間実践を重ねるうちに、生徒が互いに学び合う授業への手ごたえを感じるようになりましたが、生徒は私の指示に従って話し合いをさせられているだけで、主体的な学びを実現できていないのではないかと不安を感じるようになりました。そんなときに、TPチャートを作成する機会を得ました。

TPチャートを作成する中で、「生徒が学びの主人公」という言葉に違和感を持つようになりました。いったいどういう活動をしていたら「主体的」と言えるのか、その点が曖昧だったことに気付いたのです。同時に、なぜ生徒の主体性を大切にしたいと思う私がいるのだろう、ということを考えました。

この過程で、「学ぶことは楽しく、学びは好奇心と発見によってもたらされるもの」であり、だからこそ生徒の主体性を大切にしたいのだということに気付きました。

TPチャート作成後、「理念一方針一方法」の軸が見えたことで、授業へのアプローチががらりと変わりました。

TPチャートをもとに、毎時ごとの授業目標が計画的に設定され、目標のスリム化が可能になりました。また、生徒の「自己評価アンケート」を実施し、その結果を踏まえ、生徒の現状やニーズに合わせた單

元目標を作るようになりました。

TPチャートの作成を通じて、授業者の単元構想と生徒の目標を一体化することができ、生徒の主体性にもとづく授業方針が実現するようになってきました。

さらに、TPチャートを作成して、自分の教育理念が明確化できたことで、理念の共有にもとづく授業見学が実現でき、教科の枠組みを越えた対話が可能になりました。

## 実際に作成したTPチャート

